

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

### 【国際化関連】

全学生に占める外国人留学生の割合について、明治大学アセアンセンター（タイ）でのオープンデー実施及び本学独自の韓国での留学フェア開催による広報活動強化、外国語による授業科目の増大、既存研究科における英語学位コースの開設、国際認証（E P A S）取得（国内MBAスクールで初）などにより正規留学生の受入体制を強化した。また、双方向及び短期受入プログラムを拡充し、受入留学生数は、令和元年度通年2,320人（750人増）と毎年度着実に増大している。外国人留学生のためのサポート体制として、ウェブ出願の導入、「明治大学グローバル選抜助成金制度」、「明治大学私費外国人留学生特別助成金制度」の新設及び運用、混住型宿舎の新設とRA（レジデント・アシスタント）制度の導入などを行った。

単位取得を伴う日本人学生に占める留学経験者の割合について、学生の多様なニーズに応える形で、様々な内容のプログラムを意欲的に展開し、学部間協定留学を含めるとすでに 100を超えるプログラム数となっている。特に英語能力においていわゆる中間層に属するグループの学生が留学できるアメリカやカナダの大学を海外協定校として重点的に開拓し、カリフォルニア大学（米国）4校などでサマーセッション、サマースクールに参加できる大学も増やした。大学間協定に基づく交流数は目標どおり推移していることから、学生の希望に応じて学べるプログラムを充実することができていると言える。一方、スタンフォード大学（米国）、ペンシルベニア大学（米国）といった世界的に評価の高い大学に留学することが可能なことは留学希望者の意欲の向上につながっている。これらにより、令和元年度は1,794人（1,038人増）と毎年度着実に増大している。なお、単位取得に限らない海外留学経験者数については、平成25年度1,009人から令和元年度2,326人と大幅に増大している。留学を促進するため、平成28年度以降、交換留学生による本学学生への英語能力向上支援・学内での異文化体験の取組みとして「イングリッシュ・カフェ」を実施し、令和元年度は延べ520人の学生が参加した。加えて、世界的に高い評価を得ている大学へ留学する能力がある学生を支援する方策のひとつとして「明治大学海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」を創設し、トップ層の学生の掘り起こしのみならず優秀な学生の確保にもつながっている。その結果、海外留学・研修、国内での留学生交流型プログラム等の体験をした学生の割合（卒業時点）は令和元年度で62.2%となっている。

複数の学部で独自の語学力強化プログラムの実施や語学力向上のための授業科目を設置しているほか、将来留学を希望している全学の学生を対象に「留学志望者対象英語プログラム」を開講し、令和元年度の外国語基準達成者数は2,395人（1,755人増）となっている。

### 【ガバナンス改革関連】

令和元年度にIRデータ共有（可視化）システムを構築し、各学部等の部署レベルでも利活用できるようにした。また、令和元年度に教学の長期ビジョンとなる「グランドデザイン2030」を発表した。ここでは、学際的に融合された研究を展開する国際水準の学位プログラムの設置、学生の多様なチャレンジをサポートできるような各種助成金・奨励金の充実など、本事業の財政支援期間終了後を見据え、本学が目指すべき10年後のビジョンとそれを実現するための戦略を示している。

### 【教育の改革的取組関連】

授業時間割を、「1コマ100分6講時」へ変更し、授業期間を「14週」へと短縮した。この授業時間割・授業期間の変更を機に、学事暦について各学期14週を前半と後半の7週ずつに区分（春学期をS1・S2、秋学期をF1・F2に区分）し、14週にわたる Semester 授業のほか、平行して7週で完結する授業も設置することができる柔軟な学事暦の枠組みを設定した。学生は、自身の履修を7週で完結することにより、カリキュラムの工夫次第で学期中に必修科目を配当しない期間を創り出し、より多くの短期留学、海外インターンシップ等に参加することができるようになる。一部の学部ではカリキュラムの一部を7週完結型授業で配置する試行実施が行われた。今後、その効果や課題を検証し他学部にも報告する機会も設けるなど全学的な普及を目指す。さらに 100分の授業を各50分でa/bふたつのモジュールに区分けする「モジュール制時間割」を導入した。ナンバリングについては、全開講科目について、日英ホームページで公開した。これにより本学学生が留学する際の留学先大学での単位認定の円滑化が期待できるといった成果が見込まれる。さらには、柔軟な学事暦と相まって学生の主体的な学びや交換留学の一層の促進が期待できる。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

## 【総合的教育改革】

平成 29 年度から「1 コマ 100 分 6 講時」へ変更し、授業期間を「14 週」へと短縮した。この授業時間割・授業期間の変更を機に、学事暦について各学期 14 週を前半と後半の 7 週ずつに区分し、14 週にわたる Semester 授業のほか、平行して 7 週で完結する授業も設置することができる柔軟な学事暦の枠組みを設定した。さらに 100 分の授業を各 50 分で a/b ふたつのモジュールに区分けする「モジュール制時間割」を導入し、教育力の飛躍的な向上を図るとともに教学課題を総合的に解決する改革を推進している。

## 【「明治大学海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」の創設】

世界的に高い評価を得ている大学へ留学する能力がある学生を支援する方策のひとつとして、「明治大学海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」を平成 29 年 6 月に創設し、平成 29 年度から令和 2 年度の 4 年間で第一期として総額 2 億円を予算措置し助成した。

## 【学部レベルでの双方向型ダブルディグリー・プログラムの開始】

政治経済学部とタマサート大学政治学部（タイ）が双方向型ダブルディグリー・プログラムの派遣を令和 3 年度に開始する。双方向型のダブルディグリー・プログラムは学部レベルでは初の試みであり、タマサート大学政治学部の学位も併せて取得することが可能となる。

## 【ブランド力の高い大学との連携】

スタンフォード大学（米国）、ペンシルベニア大学（米国）といった世界的に評価の高い大学と協定を締結し、「海外トップユニバーシティ留学プログラム」を実施している。

## 【経営系大学・大学院国際認証機関の E P A S 認証を日本で初めて取得】

グローバル・ビジネス研究科は、経営系大学・大学院の国際認証機関 E F M D（本部：ベルギー・ブリュッセル）から E P A S 認証を国内 M B A スクールで初めて取得した。

## 【イングリッシュ・カフェの開設】

平成 28 年度から交換留学生による本学学生への英語能力向上支援・異文化体験の取組みとして「イングリッシュ・カフェ」を和泉国際交流ラウンジにおいて実施し、令和元年度は延べ 520 人の学生が参加した。

## 【地域・社会と連携する混住型学生宿舎】

平成 30 年度にオープンした混住型学生宿舎では、地域と連携した教育的コミュニティ・プログラムを実施し和泉キャンパスを中心としたエリアを多様で共創的な学びの場とすることを目指し運用している。

## 【海外安全情報配信サービス（たびレジ）との連携】

外務省が提供する海外安全情報配信サービス（たびレジ）と本学の基幹システムを連携させるシステム改修を行い危機管理システムの高度化を図った。大学としての同システムの導入は本学が初であり、グローバル化を牽引するモデルとして他大学にも波及することが期待される。

## 【「グランドデザイン 2030」の策定】

令和元年度に教学の長期ビジョンとなる「グランドデザイン 2030」を発表した。これは、令和 13 年の本学創立 150 周年を見据え、建学の精神、理念、本学の使命を再確認すると同時に、10 年後の本学の将来像（ビジョン）と、それを実現するための重点施策を示すものと位置づけている学際的に融合された研究を展開する国際水準の学位プログラムの設置、学生の多様なチャレンジをサポートできるような各種助成金・奨励金の充実など、本学が目指すべきビジョンや戦略を示している。ここには、外国語による科目比率を 30%にするなどの目標数値も定めている。

